

全国市街地の変遷

昭和の記憶から次代へ

地価は下落続き

としても知られている。

桜井市は奈良盆地の中央南東部に位置し、面積は98・91平方キロで、奈良県総面積の2・7%を占める。奈良市は約20キロ圏、大阪市は40キロ圏に

あり、三輪明神として全国的に有名な、我が国最古の神社である大神神社（おおみわじんじや）や邪馬台国の女王「卑弥呼」の墓ではないかと言われている箸墓古墳（はしかこふん）が所在。「三輪そつめん」の生産地

べ約70・5%も下落した。地場産業の中でも木材産業は市の経済基盤の一翼を担ってきた産業であり、桜井木材団地は吉野町と共に製材・集成材工場の2大木材団地を形成してきた。しかし安価な外国産木材の輸入、木材価格の

00年調査の6万3248人をピークに減少が続き、15年調査では5万7244人となった。また、JR・近鉄桜井駅南側の商店街「本町通」の地価公示地点はバブル崩壊後の93年に新設（1戸当たり22万円）されたが、それ以降下落が続き、17年地価公示では6万4800円と、設定時と比

本町通の再興

本町通は木材産業の最盛期



我が国最古の神社、大神神社の境内

である昭和40年代には奈良県内3大商店街に数えられていたが、近年は閉店する店舗が増えシャッター商店街となり、現在は明るくするためアーケードが撤去されている。

助し、個人がテナントとなって運営されている。また、桜井市に本店を置く奈良県内最大の信用金庫「大和信用金庫」は、同商店街本町出張所を外壁などに木材を多用してリニューアルオープンさせた。今後、2店舗のオープンを発端として、官民一体で本町通の再興を進め、かつての賑わいを取り戻すことが期待される。

市と県で整備計画

桜井市と奈良県は観光資源として、大神神社を含む周辺地区を整備するため同地区のまちづくり基本計画を4月に策定した。これは奈良県と協同で市町村がまちづくりを進める最初のケースとなる。市は主にまちづくりのソフト事業を担い、参道沿いに商業施設を整備して起業者を誘致し、空き家・空き店舗の活用事業の支援にも取り組む。行政と民間が共同し、伊勢神宮のおかげ横丁のように、参拜者をもてなす観光スポットとして、魅力のあるまちづくりに奮闘している。

大神神社参道を新資源に

まず県内3大商店街で賑わい復活へ

そこで桜井市は、

官民共同のまちづくり会社「桜井まちづくり」と共同で「コミュニティカフェ」桜町珈琲店」を本町通に4月、オープンさせた。これは建築学科の学生による設計提案で、昭和初期の空き家を改修して町家を再現した。空き

家の改修には国と桜井市が3分の2を補

所、不動産鑑定士・内田佳宏

奈良県桜井市 木材のまちから観光のまちへ



①桜井駅南口広場



②アーケードを撤去した「本町通」商店街



③木材を多用した大和信金の店舗